

寺 報

真宗大谷派松寺永福寺

平成 15 年 10 月 1 日 発行

第 27 号

発行所

富山市梅沢町3丁目1-6

真宗大谷派 松寺永福寺

電 話 (076) 423-1848

発行人 長 關 寿



松寺だより



<画と文>福光町東町 山村洋子さんの絵手紙から

感謝

永代祠堂志

上納者ご芳名

(平成 14 年 9 月 ~ 15 年 8 月)

金壹拾万円也	福光町	山村 和弘
金 五万円也	立山町	森田 康弘
金貳百万円也	砺波市	稲垣 晴彦
金貳拾万円也	右瀬町	柴田 林蔵
金壹拾万円也	中川原台	久郷 清正
金壹拾万円也	福光町	長谷川 久敏
金貳拾万円也	五 福	福村 恵一
金貳拾万円也	大 泉	上埜 安英
金貳拾万円也	窪新町	稲葉 明子
金壹拾万円也	五番町	赤坂美生子
金貳拾万円也	今 泉	瀬川 久和
金貳拾万円也	才川七	川邊 鈴子
金貳拾万円也	福光町	岸澤 年重
	(敬称略)	上納順)

ご 案 内

十一月四・五日 (火・水) 五日 午前十時 午後一時半
四日 午前十時 (午後なし)

報 恩 講 謹 修

法 話 (四日)専徳寺住職 森島 憲 秀 師
(五日) 当寺住職他

今年も聖人のご恩を偲び、ご恩の中に育っている私を明らかに
させて頂きましょう。ごなた様もお誘い合わせの上、ご参詣下さ
いますよう、お待ち申し上げます

平成十五年 十月

短 歌

富山市旭町 長 沢 菊 枝

眼裏に仏具磨ける祖母ありし慣いて現在をわれのなしつつ
磨きたる仏具ととのえ祖の魂迎うるわれの素心の盆会
親鸞の悟りとおしも迎え火を焚きいてわれの凡下のこころ
偲ばむと集う法要その裔の賑やかなれば積雲散るな
新盆の友の墓前に「嘆仏偈」誦すれば和せり蟬の嵐は
墓碑に彫る「南無」に潜みて青蛙土下座のかたちに経をきき
おり
境内の蟬の嵐にひとすじの無明の韻もききて罷り来
十九歳甥の骨壺新墓に入るこぼるるサルビア地に朱すぎる
弟より永生きせりと寡黙なる義兄酔いて詫ぶ三十三回忌
支えくれしはむしろ子らなりわれに過ぐ言葉を給う夫二十
三回忌
命あまた生み終えたるを撰理とし流れに委ね鮎の死にゆく

平成13年お盆特別法話より

城端町大福寺住職 太田浩史師

なぜ松寺というのか(2)

◆医王山と浄定法師

さて当時の女皇・天正天皇が病気になられました、どんな医者も薬もダメなんです。そこで大伴某という人が「白山のあたりにおられる泰澄大師しか治せないだろう」と勧めた結果、大師は臥行者と浄定法師の二人を伴って奈良の都へ行くわけですが、治療といっても密教みたいなものでして、法具を使う。ところが、その法具を取り出そうとしたところがないのです。そこで「浄定よ、医王山まで行って忘れてきた法具を取ってこい」「はい、分かりました」といって、あっという間に取ってきたというのです。皆びっくりした。これは回峰行をやっているからで、一日に85kmも歩くといわれます。そうしてその法具を使って天皇の病を治した。そのことによって、白山と医王山はいろんな寄進を受けることになって、立派な霊山が開かれていった。大師亡き後、神戸の浄定法師が、その後を継いで医王山を霊場として盛り上げていったというわけです。

この医王山の大きな意義は、立山信仰や白山信仰あるいは信濃の妙高山などを繋ぐ節目になっていた。いろいろな人が医王山を拠点にして移動する場所でしたから、たくさんの修行者が出入りしていて、他と比べものにならないほど一大勢力を誇っていたわけです。

◆立山信仰と浄土信仰

鎌倉時代になりまして、山の上の世界にひとつの意味づけをする人が現われました。一人は法然上人の教えを受けたともいわれている俊乗坊重源という方。この方は平家に焼き払われた東大寺を再建した人ですが、再建した後、立山に登って浄土観想をします。立山で念仏すれば、そこに阿弥陀仏のお浄土が見えるのではないか、それで立山には浄土山とか弥陀ヶ原とか、立山信仰に浄土信仰を持ち込んだのは俊乗坊でございます。

もう一人は、富山に来仰寺という浄土宗の寺がありますが、この寺を開かれたのが、光明坊林海という方で、法然上人門下の高弟でして、親鸞聖人と同門で兄弟弟子です。法然上人はこの光明坊にお手紙を書かれまして、俊乗坊が浄土と見た立山に向かって、お念仏を称えよといわれるのです。これが称名の滝の名前の由来になっています。このように山の上の世界が浄土なのだという教えが浸透していきました。(つづく)

あとがき

◆地球規模の異常気象だったせいなのでしょう、秋の長雨を思わせるような涼しいお盆でしたが、お変わりございませんか。◆このたび、またしても皆様にご難題をおかけせねばならなくなりまして、本当に申し訳ない気持ちで一杯ですが、境内の隣接地約七十坪足らずが、空き地になりました。まして、当分行事のさい、寺院方や門信徒のお方の駐車場として利用することになりました。銀行借入れもせねばなりません。寺の将来のために、どうかお力添えを賜りますようお願い、なにとぞよろしくお願い申し上げます。◆私も昭和五十一年に住職を拜命して間もなく、悲願の本堂完成工事と庫裏の新築工事、昭和五十七年に宗祖七百回忌、昭和六十三年には庫裏の増築、平成二年には福光町才川七の「松寺祖廟」の建立、そして平成十一年には蓮如上人五百回御遠忌法要を厳修させていただきました。文字通りご門信徒の皆様を支えられての歩み以外の何物でもありませんでした。おそらく最後のご奉公となりましょう。◆たぶん十月中には「松寺ホームページ」を立ち上げることができそうです。いつもご案内の「中学生はがき通信」を軸に、インターネット上に公開したいと願っています。取得ドメイン名はhttp://www.matsudera.jpの予定です。乞うご期待のほどを。(生職記)